



毎月十五日発行 所 大社 社
宗像 社
電話 0940-62-1311代
定価 一年送料共 1000円

神具 装束 結納式用品 本社 電話 0940-62-1311代 定価 一年送料共 1000円

主基地方風俗舞記念誌発刊

昭和のあゆみ

当大社春秋の大祭に奉納される風俗舞は、現在宗像「主基地方風俗舞」大社風俗舞保存会委員の昭和のあゆみと題する冊子の奉仕により奉納されて...



主基地方風俗舞

論説 欧米諸国の「無名戦士の墓」は、それぞれ厳粛な儀式によって一体ないし複数の収納遺体を遺定し、その遺体をまとめて全戦死者を代表するものと性格づけられている。実は日本でも、無名無縁の戦死者の墓地建設が計画された当初には、欧米諸国のように、収納する一部の遺骨をもって全戦死者を代表、象徴する墓とする構想意見もない。

宮内省雅楽部で作曲、作舞され、大嘗祭大饗宴にのみ披露される国風舞が「主基地方風俗舞」風俗舞と呼ばれる。昭和三十九年、今上陛下御即位の大札に際し、福岡県早良郡扇山に主基地方に選ばれ、扇山村の産主、横山神社が宗像大社の御分社であった関係上、京都御所に新設祭上當日、宗像大社に御分社一同が御礼詣をされた。

宮内省雅楽部で作曲、作舞され、大嘗祭大饗宴にのみ披露される国風舞が「主基地方風俗舞」風俗舞と呼ばれる。昭和三十九年、今上陛下御即位の大札に際し、福岡県早良郡扇山に主基地方に選ばれ、扇山村の産主、横山神社が宗像大社の御分社であった関係上、京都御所に新設祭上當日、宗像大社に御分社一同が御礼詣をされた。

千鳥ヶ淵墓苑と無名戦士の墓 終局、墓の性格は無縁遺骨の収納施設と定められ、そして、この墓は、外国における「無名戦士の墓」とは異なるものである。この墓は、外国における「無名戦士の墓」とは異なるものである。この墓は、外国における「無名戦士の墓」とは異なるものである。

昭和五十九年度 年越の大祓式並に 除夜祭の御案内

歳の瀬を迎え、皆様方には厳寒の中御多忙の御事と拝察申し上げます。扱て、恒例の年越の大祓神事並に除夜祭々典につき御案内申し上げます。

この神事は一年間の心身の罪・穢を人形に託して袂い除き、清々しい気持ちで新年を迎える儀式であります。又、除夜祭は、一年の祭典の納めを神前に報告し御神徳に謝す祭典であります。

御案内 本年も左記日程により、大祓式並に除夜祭を斎行致します。皆様方と御一緒にこれらの儀式・祭典を奉仕し、清き心で新年をお迎え致し度く、御参拝御参列の御案内を申し上げます。

第二八一回 宗像大社歌会詠草

自由ヶ丘 後藤君代 むらがりて木々の梢に見ゆ 晩秋の陽は大鳥に落ちんとす 夜の船が港を出てゆく

「師走」この月になると、僧(師)があちこちと忙しく走り廻る。この語ができたといわれているが、いかにも年の暮のあわただしさを表わしている言葉である。そのほか、一月から十二月までの和名は、ともとも農事に係わるものといわれている。だから「しわす」は「為果す」であり一年の農事を完了する終りの月の意である。そのほか「二月」は「さきさき」は「刻らぎ」で鐘で刻らばす月。十月「かみかみ」は「醸成」で新穀を以て新酒を醸成する月といわれている。

東郷 藤崎 辰子 水槽の底に張りつく黒き魚を網に掛ひて人の去りたり 大島 大島 勝代 いさぎよき飛沫(しぶき)をあけて突き進む船のおもてに淡き虹立を 吉留 高山 信子 産卵に川降りゆく蟹の群幾百があお網にかかれ (評) 表現に迫力を持つ。失敗しがちな「ああ」という感動語も、この場合よく納まりを見せている。

第十三回宗像大社 献詠短歌大会 福岡県知事賞に 宗像市の白木うめのさん



選者賞 一席 福岡県知事賞 宗像市 白木うめのさん 二席 福岡県教育委員会賞 宗像市 立石りせ乃...

三席 宗像大社賞 飯塚市 塚本不二男 賞上げのほら巻の友ら...

第十三回宗像大社献詠短歌大会 変態強くなったようであつた。専食の後、五名の選者...

大会に先立ち、先ず献詠神事が厳粛に斎行され、斯道の発展、参加者の無病息災が祈念された。...

門司区 布谷智多子 ことさらに子と抗うは 避くべきと庭に降りた...

八席 毎日新聞社賞 戸畑区 奥田みずえ 還曆を過ぎし吾が身に...

三席 宗像市 立石 勇雄 三席 宗像市 立石 勇雄 宗像市 立石 勇雄...

四席 毎日新聞社賞 八幡西区中村 重義 草刈りてはくらく畦に...

宗像路も十一月下旬に入ると初冬の景色も濃くなり、田んぼも切り株が寒々...

心字池の清掃 心字池の清掃が行われた。境内中央にある「心字池」は広さ二平方メートル...

昭和六十年正月 特別昇殿参拝の 祭典ご案内 新年を迎え宗像大社の 神前に一年間の無事息災を...

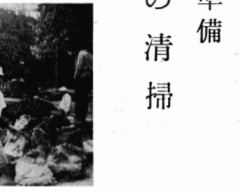
一、祭典名 正月昇殿正式参拝祈願 一、祭典場所 本殿 一、祭典初穂料 一人 一金一、〇〇〇円也

初春迎への準備 園道三号線原町信号機より右折、野坂方面に約三キロ...

宗像大社本因坊戦 十二月二十三日、第十二回宗像大社本因坊戦が百五十名の選手により争われ...

宗生寺 (宗像市大字大穂) 園道三号線原町信号機より右折、野坂方面に約三キロ...

宗生寺の歴史 宗生寺は、当大社との縁も深いので今回はこのお寺を訪ねた。



園道三号線原町信号機より右折、野坂方面に約三キロ進むと大穂池園に入る。

園道三号線原町信号機より右折、野坂方面に約三キロ進むと大穂池園に入る。

園道三号線原町信号機より右折、野坂方面に約三キロ進むと大穂池園に入る。

宗生寺 (宗像市大字大穂) 園道三号線原町信号機より右折、野坂方面に約三キロ進むと大穂池園に入る。

宗生寺の歴史 宗生寺は、当大社との縁も深いので今回はこのお寺を訪ねた。

宗生寺の歴史 宗生寺は、当大社との縁も深いので今回はこのお寺を訪ねた。

宗生寺の歴史 宗生寺は、当大社との縁も深いので今回はこのお寺を訪ねた。



宗生寺の歴史 宗生寺は、当大社との縁も深いので今回はこのお寺を訪ねた。

第二十九期 出光店主室教育終る

二十四名の同期生



の一隅に起居し、白衣白袴を着用しての研修は、今迄の日常生活とは多少趣きもことなり、受講生達も最初はいさかまとどろい気味であった。しかし一日一日と研修にも慣れ白衣白袴もすっかり板につきまゝで神主の様であった。

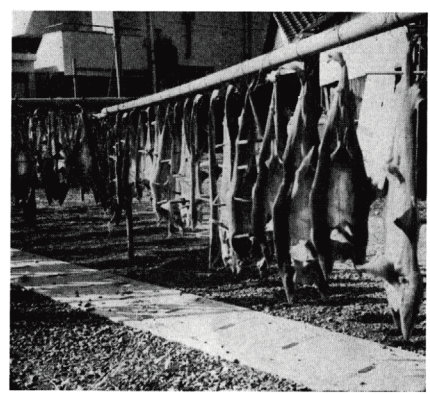
去る十一月十三日より十六日迄の四日間、出光の三泊四日間の研修開始。光興産株式会社店工室教育(二十九期生・二十四名)が行われた。

茨木宗像会

秋季大祭 斎行

大阪・京都のほぼ中間に位置する茨木市の西北に新等の大神威を戴いて日夜、たに建立された茨木宗像会、信仰の道に精進されていくの神職に於て、新嘗祭の当日にあたる十一月二十三日午後一時、恒例の秋季大祭が斎行、当大社宗像会、信者多数参列の下、盛大に斎行された。

引続き、会員一同、神前にて、直会が賑々しく行われ、宗像会神道所長、並に、鎮魂と振魂についての講義があり、祭典は滞りなく終了した。



郡内アラカルト

師走の風物詩「のうさば」

女界灘に師走の風が吹く頃になると、鐘崎の砂浜には、名物の「のうさば」のスタレが出来る。漁船漁業県下の漁獲を誇る鐘崎は、当大社の摂子町でもある。「釣りに鐘伝説」のロマンを持ち、万葉の古歌にも詠われた。かばのうさばは、すきぬともわかれはすきぬ、しのかのうさば、の和歌をのこす風光明媚な港町である。

雑記

泣いても笑ってもあと数日、正月が明ける。人それぞれ、この一年をふりかえり、感謝深いものがあること。良い出来事は来年へ、悪い出来事は洗い流して、来年こそは良き年であるようにと願う。

創立十周年を迎えた「玄海の家」

御苦労なされた様子で、右を濃き緑の松に囲まれた福岡県立小年自然の家「玄海の家」は玄海町五月松原の中に在る。自然にめぐまれ、海が山が砂が樹立ちがすべて教材となるこの「玄海の家」は、県内小中学校を始め指導者講習会会場等にも利用され、大変喜ばれておられる。この創立十周年を迎え、このほど盛大な祝賀式典が十一月二十五日催された。

昭和四十六年十一月一日、少年自然の家設置委員宛、足元より十月末日、研修生は延べ六十万人を数える。昭和四十九年八月十日に落成開所式を行い、利用者受け入れ開始より十年の歳月が流れた。現所長、佐藤孝雄氏で、この十年間に所長も二代の交代があり、それぞれの間に飾り付けもその例である。正月行事というは、家々に歳神様を迎える為に行なわれて来たもので、門松も、歳神様を迎えるため、夜など様々な呼ばれ方をしに作られ、この松に祖先神が降りて来られるのである。

日或は十四日、十六日頃に正月行事というは、家々に歳神様を迎える為に行なわれて来たもので、門松も、歳神様を迎えるため、夜など様々な呼ばれ方をしに作られ、この松に祖先神が降りて来られるのである。最近、正月に使用した門松や注連縄等を何処へ持って行き処理すれば良いかと多いが、このように飾り付けの終わったのは、各社へ持って行けば焼納して貰える。この焼納の行事は各地で行なわれており、申でも良い知られてはいるが、病息災を祈る心には変わりはない。

宗像むかし話 (三)

中津宮 二夜三日祭

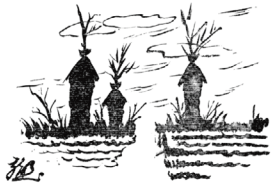
秋のとりいれも終った旧暦十一月一日になると、この大島の農家の人は揃って中津宮に集まり、その日から三日間参籠をする。今年も十一月二十三日の勤王感謝の日から二十五日まで、島村の庄屋であった大島松一郎重高の遺徳を偲ぶため、二夜三日祭と呼ばれる、二夜三日の参籠の行事が行なわれる。

話は今から三十三十年前、江戸時代の中頃にさかのぼる。八代将軍吉宗の治下、享保七年(一七二二年)は、大島松一郎重高の生誕地である。享保の飢饉と呼ばれて、前年の冬以来、氣候が不順で五月・六月頃まで長雨が続き、気温もまた低かった。これによって、秋の収穫が現れなかった。加えて伊勢、近江以西の西日本一帯にイナゴの大群が発生し、一夜のうちに稲数万石を食い尽すという猛獣をふるい、遂に大凶作の年となってしまった。飢饉は、再三藩村に波及した。幸い翌年は平年作に戻った。参籠中行なわれる祭典に、拝殿に頼りて神職の奉仕を受ける。村に頼りて、神職の奉仕を受ける。村に頼りて、神職の奉仕を受ける。



大島松一郎重高翁と大島

参籠中行なわれる祭典に、拝殿に頼りて神職の奉仕を受ける。村に頼りて、神職の奉仕を受ける。村に頼りて、神職の奉仕を受ける。明日の俸を願い、その向上発展にとむべきは勿論であるが、それがともすれば自分だけの利益を追い、他を顧みないという弊に陥りがちな現代の風潮にあって、一身を投げうって村人の危難を救った庄屋の義気に、庄屋の身を案じて一途に神に祈った村人の心情を偲ぶことも、現代人であるが故により意義深いことであるといえよう。



福間 二宮 末子
釣鐘の里に帰りに八所宮
福岡西 入江 柳江
庭の柿初物なれば供えけり
八幡西 磯谷 緑雨
堂に満つゆかしき香り菊花
展
田 熊 安部 ゆき
菊日和亡夫の回忌や木魚の
音
鐘 崎 岩瀬 辰夫
二毛作(麦)殖へたり農政
見直さる
福間 広渡一寿軒
初霜やジャケツの補修うな
がさる
津屋崎 西住三郎
空の紺淵に沈めて落葉散る
津屋崎 井浦 良介
紅茶飲む聖夜の曲間き終え
て
藤 沢 井上 玄洋
冬の海後ら髪ひき男波寄す
香 椎 板矢クニコ
座敷まで並べてありし菊の
鉢
田 熊 力丸 一郎
北窓を築き余生の日を重ね
はげし
福岡中央丸丸ゆする
更くる夜のハツ手に雨の音

宗像大社歌会 俳句作品集(三)

〔ご案内〕 昭和六十年(乙丑) 正月祭 社頭授与品並に 諸祈願祭齋行

昭和六十年正月に当大社 当社が毎年元旦を期して
の社頭において、参拝者の 社頭で授与している縁起守
皆様に授与致します。神札 で、その年の十二支を「楠
・御守・縁起守並諸祈願祭 の木」を材料に用い、伊勢
を誌面を以ち紹介し上げ の名匠に特別に製作を依頼
してあります。
——◇——
えと「一刀彫」
初穂料 一俵 二〇〇 〇円也
この「えと一刀彫」は、 来年の十二支は「うし」
であります。この「うし」 は十二支の中でも特に貴重
な存在であります。即ち、 古くより人間生活の場で「
うま」と並び、農耕生産で

は動力源として又、食料用 年の元旦に皆様に授与致す
として人間の生命の糧とな 為、本年夏頃より伊勢の彫
り財産でもあり、その性格 師に依頼してありますが、一
は耐順で耐腐強く、粗食に 日に一〇体位しか彫り上げ
れないが、農家で是一家に ことが出来ないとのこと
一頭は必ずといってよい であり、十二月末に約一五〇
位飼育していた。特にメ 年多くの方々が授与希望さ
に生は子牛を生む為に大切 れていますが、正月三日の
に牛、インドでは今日で も神聖視され信仰の対象に
もなっています。日本でも され付けて下さい。

写真製版で記載し、その下 月に毎祭典行事を同じく
カラー写真にて挿入し、各 説明文並にその月の主要祭
典行事を列記し、その下に 七曜、六曜を配した日数を
記載した、丈24cm・巾16cm
の短冊型、吊下げ形式で
お持ちします。
初穂料一俵一〇〇〇円
円から三〇〇円迄。
●身体守
●災難厄除・学業成就・縁
結・無病息災等の守札を授
与致しております。
初穂料一俵一〇〇〇円
円から三〇〇円迄
●縁起守
●ハマ矢・カブラ矢・福迎
●縁起土鈴・えと土鈴・絵
馬・えと絵馬等の守札を授
与致しております。
初穂料一俵一〇〇〇円
円から三〇〇円迄

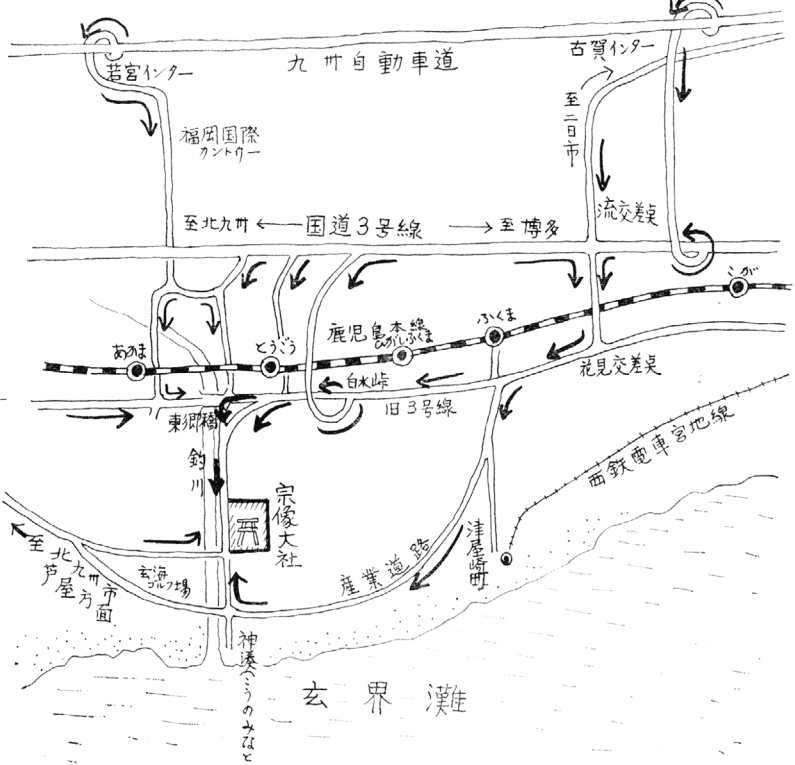
特殊自動車用守から自転 車用守まで授与致しており
ます。
初穂料一俵一〇〇〇円
円から三〇〇円迄。
●家庭・事業所神職神札守
伊勢の神宮大祓・宗像大
社神符・木札守等授与致
しております。
●車庫交通安全祈願
祭典場所 於祈願殿
祭典料 一俵一〇〇〇円
祭典場所 於祈願殿
祭典料 一俵一〇〇〇円
祭典場所 於祈願殿
祭典料 一俵一〇〇〇円

昭和六十年正月諸祈願祭 祭典料 原則として一俵
四〇〇〇円也を神納して いただきますが、予算等
の都合に依る場合は事前 に申し出願いたします。
●授与品 前項に準じ授
与致します。
●会社・団体の業務繁栄、
業務安全、商売繁昌、海
上安全、大漁祈願祭等
祭典場所、於本殿又は
儀式殿
祭典料
一、祈願祭一件(二〇名
以下)一〇、〇〇〇円
一、(二〇名
以下)二〇、〇〇〇円
一、(五〇名
以下)三〇、〇〇〇円
一、(五〇名
以上)五〇、〇〇〇円
以上は本殿境内の神酒授与所
にて御神酒の授与を行いま
す。

列者全員に撤下神饌一袋 授与致します。
●家庭・個人の家の内安全、
神楽祭、交通安全、学
業成就、厄年、厄除、初
宮、心願成就祈願祭等
祭典場所 於儀式殿
祭典料 一人又は一
件、五、〇〇〇円以
上志して神納願
います。
●授与品 一件又は一人
につき、願意による御
守札を一本、玉串御幣
一本、祭り暦一部、撤
下神饌一袋を授与致し
ます。

尚、祭典を受けられた皆様
には本殿境内の神酒授与所
にて御神酒の授与を行いま
す。

宗像大社 正月参拝案内図



宗像大社 辺津宮境内図

